

メニエール病

この病気 この治療



広島大病院
耳鼻咽喉科・頭頸部
外科診療准教授
工田昌也さん

「どんな病気ですか。周りの景色がぐるぐる回るように感じる、回転

返しますが、頻度には個人差があります。原因は、内耳の中に内リンパ水腫と呼ばれる水ぶくれができ、さらに精神的ストレスや疲労、睡眠不足などが重なる発症します。水腫ができる理由はまだ分かっていません。神経質な人やきょうもんな人が発症しやすいようです。発症の平均年

返しますが、頻度には個人差があります。まいの検査と聴力検査をします。ポイントは聴力検査で、聞こえにくい時期とよく聞こえる時期に分かれる人は、発作の時期と回復期に分かれています。証拠なので、メニエール病が疑われます。また、内耳のむくみをとる利尿剤を飲む検査で聴力が回復した場合も、メニエール病の疑いがあります。

「どの程度、改善しますか。」

治療には最短でも半年から1年間はかかりますが、9割以上の人はめまいが落ち着きます。ただ、難聴は、中程度から高度に一度進んでしまうと回復が困難です。初期段階で治療を始めることが重要です。メニエール病を未然に防ぐためにも、日ごろからストレスを減らし、有酸素運動を心掛けます。

激しいめまいと難聴 ストレス・疲労で発症

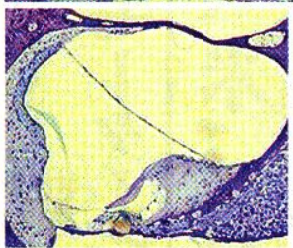
激しいめまいや難聴を起こすメニエール病。治療が遅れると、聴力の回復が難しくなる場合もある。日本めまい平衡医学会専門医でもある広島大病院（広島市南区）耳鼻咽喉科・頭頸部外科の工田昌也・診療准教授（52）に診断や治療について聞いた。（治徳貴子）

性の激しいめまいが30分以上も続きます。立っていられなくなったり、吐いてしまったりすることもあります。同時に、難聴や耳鳴り、耳の閉塞感もあります。発作は繰り返

年齢は男性が48歳、女性は51歳。最近では、男女とも60歳以上の人が増えていきます。ストレス社会の現代、国内には約5万人の患者がいるとされます。どう診断しますか。

まずは耳鼻科に行ってください。問診で、発作の状況を聞き、一般的なめまいと異なる点や、塩分を控えることも有効です。

通常の薬物療法で効果がない人には、耳にチューブを入れて圧をかける「中耳加圧療法」や、水



①内リンパ水腫ができ、一部が大きくふくらんでいる。実験用マウスの内耳
②正常な内耳
（いずれも工田診療准教授提供）

「メニエール病」についての質問・相談を募集します。郵便、ファクス082(291)5828、メールkurashi@chugoku-np.co.jpで、中国新聞文化部「この病気この治療」係まで。26日締め切り（必着）。掲載は匿名ですが、住所、名前、年齢、性別、連絡先を明記してください。

頭痛外来からのメッセージも